24-1

砺波カイニョ倶楽部会報

第二十四号

平成十四年十月発行　発行者 砺波カイニョ倶楽部　代表幹事　柏樹直樹

事務局　富山県砺波市表町七―二十五　TEL　0763／33／6588

天野一男建築工房内

重厚な杉森家の屋敷林にひたる

スギと共に生きる家風に胸うつ

平成十四年九月十四日（土）、井波町飛騨屋・杉森孝一さん宅の屋敷林の見学会を開きました。

秋、真っ盛りの散居で、屋敷林の多い飛騨屋地区の杉森さん宅と駐車場の間にある神明社や、不動様、地蔵様等の説明を尾田武雄さんから説明を受けました。

杉森さんの屋敷林は、樹令二百年以上のスギ大木、十本余りをカシやシロダモの中低木が支え、重厚で活気のある内容のもの。特に母屋正面に、門杉の体をなす、スギ大木は参加者を驚かせました。そのスギの間だけ舗装コンクリートが、はぶかれたり、木の間を利用して納屋を作ったり、屋根の庇を切って木を助けたり、昔から木を大切にしてきた杉森家の家風にも触れることが出来ました。

屋敷林の見学後、座敷で風が大変強くて恐ろしいことや、杉森さんの家屋や、その修理に屋敷のスギを利用している話しを聞き、その材を使って、最近、普請された台所の方も見せてもらいました。屋敷掃除の苦労や、タケ林は息子さんが残せというから、おいているといった話しもありました。

当日の参加者は、二十八人。皆さんに、感想や意見を書いてもらいました。又、この模様を北日本新聞と富山新聞が報道し、金沢の雑誌社も取材していきました。

◇　◇　◇　◇　◇　◇

屋敷林との共存理解

砺波カイニョ倶楽部　井波の杉森さん宅で

砺波カイニョ倶楽部の例会は十四日、井波町飛騨屋の杉森孝一さん宅で見学会と説明会が行われ、メンバー二十人が井波の風雪から家族を守り、共存してきた屋敷林（カイニョ）の歴史に理解を深めた。

杉森さん宅は、庄川町から移築され百十年が経過し、樹齢二百年のスギ大木などに囲まれている。参加者はカイニョを見学した後、妻で敏居村保全委員の桂子さん（四〇）から、屋敷林の役割について説明を受けた。

桂子さんは、成長して伐採したスギの木で、自宅の床材や天井板など補修用の材木に活用されていることを紹介、冷房の必要のない屋敷林の機能についても話した。

平成１４年９月１５日富山新聞

杉森さんの母屋正面・昔のくず屋跡がよく分かる。

■　感想＆意見　■

男・２０代以下

・屋敷林のスケールの大きさ・歴史を感じた。

木を生かす、昔からの知恵や生活が残っているのもすごい。

女・２０代以下

・「砺波平野のカイニョ」とひとくくりには出来ないということが分かった。地域の特性に応じて、特徴があることが興味深い。

カイニョと住む人が、手入れをしたり、建築資材、燃料として一緒になって生活してきた様子がよく分かった。家の間取りが、葬式を想定して組まれているなどの話しを聞き、面白かった

男・３０代

・小さい頃は、友人の家でもこのような形態の家が多かった。懐かしさを感じた。何かとせわしい世の中、忙しさの中に、枝の葉の処理などが面倒なので木を切ってしまう。世が世なので仕方が無いかもしれないが、何とか守っていけないだろうか？と思った。

私の家は、神主で、前には神社がある。小さい時から杉の葉の処理、特にイチョウの葉の処理は大変。休みが１日つぶれて、しばらくすると、又落ちている。昔は、イチョウの実をもらっておこずかいをもらっていた。おこずかいほしさに掃除をしていたが、現在も何かに活用できないのかな？と思った。

・色んな時代の材料が新しい色、古い色で混在していて、普段はカッコ悪いと思う瓦の色の違いさえ、気持ちよく見ることが出来た。又、増築や改修を重ねている家屋の在り方が本来の姿だと感じた。

もともと杉の木が植えられている場所に家を建てる先祖の考え方が今と違って不思議に思えた。しかし、ここへ嫁に来るのは大変だなぁ～自分だったら尻込みするかも・・・。

女・３０代

・沢山の樹があり、種類も豊富で見学させてもらって嬉しい。街の中で生活していると、この様な住空間に憧れる。

ご主人、奥さんとも家・歴史を誇りにしていらっしゃる事が素敵です。

佐々成政の時代からの歴史が続いていることに感心しました。ＴＶドラマや本の中の歴史が自分の家にも通じていることがすごいと思います。

■ 感想＆意見 ■

女・３０代

・遠くから見ているのと、近くから見上げるのと、木の高さが全然違うと感じました。３００年を越える樹令の柱の中に静かに住んでおられる感じが素敵だなと思いました。
木と生活との共存や調和の知恵が素晴らしいと思いました。
簡素な空間は心が落ちつきました。
樹木というひとくくりでなく、さいかちや杉やつばきや竹や用途、役割があり、日頃目にも止まらない事が、今日は皆さんに教えて頂き勉強になりました。

男・４０代

・大杉の大きさ、美しさに感動した。庭全体に敷きつめられた苔の美しさ。屋敷間の距離があり、個々の座敷も広いスンバの処理が大変そう。
・人間が大きく育つ歴史を、大切にしている。冷房がなくてもしのげる良さ。
・街の住宅とは別世界でこんな場所で生活をするのは贅沢だと感じる。
屋敷入口の２本の樹の狭い間を通ってアプローチになる所の感じが良い。
犬や猫をこういう環境で飼うことが出来たなら、人・動物とも幸せ。
暑い日に来て屋敷内の涼しさ・冬の寒さ等の時期を体験したい。

女・４０代

・カイニョのある家を見学させて頂き、毎回先人の人達のすばらしさに驚いています。人間が住む家なのですが、今の家は、本当ならもっと考えて建てるべきです。杉森さん宅は、深く考えられ古いものを大切にし、理想的な人達です。
・写真や新聞などで、散居のお屋敷や中での生活を大切にすることを知らされるのですが、肌で感じることがなく、本当の良さが分かりませんでした。今回実際に肌で本当の良さを感じる事ができました
壊すことは一瞬にできるが、ここまでの歴史をとにかく大切に守っていくことが私たちの大切な役目だと感じました。しかし、維持することの大変さも御苦労があります。
先日の話し合いでもでてきたのですが、中学生の「十四歳の挑戦」などに家敷の中でのスンバ拾いなども体験する機会があってもいいと思います。

男・５０代

・充実した屋敷林を感じた。杉をはじめ巨樹の屋敷林には、相当な年月がたっているようで、人と自然の中の住いを大切にしてこられた六代の重みを感じた。
将来的にも、豊かな暮らしとその一典型を見たようにも思われる。省エネ、省資源を考えても自然（林）を生かした家づくりを推奨していきたい。
こういう見学会を、続けてほしい。
・大きな杉の木があり、スンバの処理が大変です。特に雨樋など高い所へ落ちた時大変だと思います。雨樋に落ち葉が入らないようにならないか。
大きな木のすぐそばまで小屋の屋根があるが、風が吹いた時心配にならないか。

座敷で説明を受ける

屋敷林が大きいため、家の中が涼しいと思いますが無駄な電気を使わなく自然の恵みの大切さが感じます。庭掃除を常日頃から厲にヤブにならないように行っていくのは大変である。
・深い歴史に感動した。自然が豊かであるが都市化が心配である。
屋敷林の保存は個人に頼っているが、行政の協力も必要である。
・我が家と数キロメートルしか離れていないのに局地風の向き、強さが全く異なる事がカイニョの向きで異なる。
２００年以上の杉が１０本以上もあり迫力。落雷や枯死の毎に、増築・改修とはうらやましいことです。
飛騨屋の歴史も面白く、もっと知りたい。

男・６０代以上

・家屋を拝見して、昔、家を作った事を思い出して懐かしく思った。
・飛騨屋地区の天然自然条件が、大変恵まれている事が、当家の景観及び建物の維持耐久性にあらわれていると思う
・門スギのような木が素晴らしい。スギの品種について確認して欲しい。一品質の優れたものである。
入り口に近い所にハシゴが、かかっているこの事が、素晴らしい。　奥さんの「取られて困るものがない」との言葉が嬉しい。散居と都会の大きな違いである。
カイニョらしいカイニョだと感じた。（中木が適当に配置されている。）屋敷内のシイタケの「伏せ込み」は菌をまんえんするもの一榾越（ホダオコ）しをすべきでないか。
・古くから生きる樹木を大切にし、その木と共に生きる姿がよく分かった。庭や建物は木を中心にしてつくられている。
建物の前の腰板が「無ぶし」のものを使って見えた。自分の家のスギ材の利用で素晴らしい。もったいないと思った。
高木の下の中低木が良い。ヒサカキ・ツバキ・カシの中木はよい。
屋敷の広いことが良い。もちろん管理は大変だろう。２００年以上のスギの値打ちにうたれた。木と一緒に生きることの大切さを知った。是非、子供に伝えて感じ取ってほしいものだ。
・大径木が２０数本もあるのか、これが素晴らしい。建築物は、人手で成るが樹木は、自らの力で樹令を重ねないと成長しない。得難い宝だ。
開け放たれる戸から外気が涼を呼ぶ。その外気と共に時代の空気も文明という利便さに杭して、田園にとけ込んだ生活を維持する家の中のコンセンサスが、子や孫がそれを受け継ぐことが大切か。

女・６０代以上

・杉葉の掃除が大変そう。自分の家の木にこだわり、家の材に使えるのは感心ですが、古い大木だから出来る事だと思う。

☆感想・ご意見有り難うございました。